

つながりを求めて



特定非営利活動法人なら人権情報センター

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL 0744-33-8585 FAX 0744-32-8833

E-mail info@nponara.or.jp

(担当: 西田・吉岡)

2026年5月

第148号

NPO 法人なら人権情報センターは、「誰一人取り残さない」やさしさとぬくもりのある地域社会、まちづくりをめざして、地域の人々とつながり、人権を尊重し合える事業を進めています。人権を大切にする気持ち、自分自身を大切にする気持ち、人々とのつながりを大切にする気持ちを育むために、さまざまな研修や講座、学習支援、相談者に寄り添った各種相談事業をおこなっていきます。多くの町民の皆さんの、ご支援、ご参加をお願いします。

かいほう塾 振り返り

三宅町地域人権学習事業「学習支援」のかいほう塾が3月12日で終了。閉講式と3年生の歓送会をあざさ苑で行いました。＝写真。

生徒15人、スタッフ8人、仲川延也・式下中学校長、町教育委員会など、総勢25人が出席。スタッフを代表して松島拓海さんと、仲川校長が、それぞれ励ま

しのことばを送りました。



このあと、1年生5人、2年生6人、3年生4人が輪投げ、ポッチャ、ダーツで交流。3年生進行のビンゴゲームを全員で楽しみ、盛り上がりました。

今年度のかいほう塾は9月開講と期間が短かったですが、ボランティアスタッフは塾を経験したメンバーが多く、式下中卒業生でもあるため、中学生との信頼関係はすぐに生まれました。クラブ活動や担任の先生の話、昔の学校の雰囲気や流行などで話題は尽きることなく、毎回、学習と交流の時間があっという間に過ぎていきました。

また、11月20日、三宅町で小中高生の居場所づくりの活動をされている「あそぼう会」との交流も実現できました。配膳などを担い、夕食を共にして楽しい時間を過ごすことができました。

食事のあとは作業室でスタッフと学習をしたり、小学生とカードゲームをしたり、トランプやボードゲームで遊んだりして交流を深めました。

三宅町も少子高齢化が進んでいます。塾を卒業した中堅世代がボランティアとして参加してくれることは、地域の活性化と発展にもつながり、また地域内外を問わず、様々な活動を結んでいく要にもなると、期待していきたいと思います。



人権講座 第5回報告

悪意あるものだけとは限らない。マイクロアグレッションとは・・・

第5回三宅町人権学習講座が2月12日にあざさ苑で行われました。関西大学社会学部教授の内田龍史さんが「部落差別とマイクロアグレッション」をテーマに話をしました。

マイクロアグレッションは日常よく行われるような言動、または環境による軽蔑をいいます。意図するかしないかに関わらず、敵意・軽蔑、マイナスイメージ、侮蔑を相手に伝えます。

もう少し詳しく言うと、マイクロアグレッションは3つに分類されます。

一つ目は従来型の差別で悪意があり、気づきやすく対処しやすいマイクロアサルト(攻撃)。例えば差別用語の使用など。二つ目は悪意はなく主観的には褒めている場合もあるマイクロインサルト(侮辱)。例えば「女性なのに、リーダーシップがあるね」という発言。これには女性はリーダーシップがないといったメッセージが隠れています。最後に相手の経験や感情を否定し無視・矮小化するマイクロインバリデーション。例えば「それって気にしすぎじゃない?」「大げさすぎる」といったもので相手の気持ちを無視しています。

差別は悪意によるものだけではありません。悪意がなくても生じます。

差別の原因である「過度な価値観の画一化」と「知らないことへの不安」、それらを解消するためにも学びと出会いが重要。不利になりやすい立場の人たちが不利にならない仕組みが人権の実現。すべての人が自分のふるさとを誇れる社会にしようと内田さんは締めくくりました。



人権相談 振り返り

様々な人権に関する相談を受け付けました。

今年度の相談件数はのべ30件でした。

ケース1 配偶者からの暴力

言葉の暴力に耐え切れず、子どもを連れて実家に戻りました。相手から離婚調停を起こされ、現在離婚・親権をめぐる調停中。子どもとの面会を求められていて連れ去られるのではないかと不安で仕方がない。

対応: 面会場所まで相談者に付き添い不安の解消につとめました。

ケース2 パワーハラスメント

生活保護を受給しています。福祉事務所の職員から高圧的な態度や心無い言葉を投げつけられました。結果、精神的なショックから病院に通う羽目になっています。

対応: 傾聴し、支援が必要ときは連絡くださいと伝えました。



電話や来所をしてくださった相談者のみなさまには心から感謝します。

